事例No.	2717
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	特定非営利活動法人智頭の森こそだち舎

事例区分	地域活性化

タグ	・移住定住 ・教育・子育て ・関係人口

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

特定非営利活動法人智頭の森こそだち舎

出典

令和２年度ふるさとづくり大賞事例集

優　秀　賞

特定非営利活動法人智頭の森こそだち舎　　鳥取県智頭町

定住促進　環境保全　コミュニティ

概　　要

2006年智頭町に移住してきた西村代表が都会で真似できない田舎ならではの子育てとして森のようちえんを構想し、町独自の町おこしの仕組みである『智頭町百人委員会』に企画提案し、『智頭町森のようちえんまるたんぼう』を設立。2009年に行政が支援する形でスタートした。地域の資源（森、ヒト、風習等）を活かした、子どもの主体性を伸ばす幼児教育はメディア等にも取り上げられた結果、森のようちえんを目指して智頭町内外に移住してきた人数は209名、定着率（卒園後も移住先に定住）77.4%の取り組みとなっている。活動は広がり、小学生以上を対象とするサドベリースクールや、子育て移住者向けシェアハウスなども運営している。



【探検】



【味わう】

評価された点

・2009年よりスタートしており、活動に広がりがある。ユニークである。
・森のようちえんの先駆けであり、子どもの豊かな学びを地域の中で創出し、移住者を呼び込むことにもつながっている。
・豊かな自然を最大限に活用し、幼い子どもたちへの教育方法は、都会育ちの子どもには味わえない贅沢なアイデア。地元愛を育てることにもつながる。
・自然との共生社会の取り組みが移住者等の実績として結実。
・地域資源を生かし、移住者増に繋げ、また、新しい課題に対しての新展開が継続されている点を評価。定着率が高いのも、こうした新課題の解決によるところが大きいのではないだろうか。
・2009年に行政支援のもとスタート。以来、森のようちえんを目指して智頭町内外に移住してきた人は209名、定着率（卒園後も定住）77.4%。卒園後の児童の受け皿や子育て移住者向けシェアハウスにひろがるなど、継続性、実績、効果、発展性、協働性各要素に高いパフォーマンスを発揮している。
・都会にはできない野外保育によって、移住者が増えていることに注目した。保育世代は若い人が中心になるので、年齢構成の若返りにも当然貢献する。先駆的な事例として参考になると考える。